

---

# ぼけっこみ

高山智春

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ぼけつつこみ

【Nコード】  
N6116C

【作者名】  
高山智春

【あらすじ】  
数学教師と生徒が、天然な漫才をします。

## プロローグ（前書き）

日記みたいなものです。

気軽に読んでくれたら嬉しいです。

あと、笑いのセンスを磨けたらと思います。

ちなみに今回はキャラ紹介みたいなだけです。

## ブローグ

「やあやあ、元気かい」

数学教師が現れた。

「やじるしにげるっ」

宿題を要求してくる素振りを見せたので、あえなく逃走を選択。

「ふふっ、その素振りに気づけば逃げるのも容易い事！」

逃げながら言っていると息が切れる。

「いい加減諦めたらどうだい？」

数学教師が女生徒を諭すのだが。

「誰がっ！」

女生徒は足を緩めることもなく走り去ってしまった。

「うーん、参ったなあ」

気の良さそうな数学教師は細い目を更に細めて、走り去る女生徒の後姿を見送った。

時間差で風が吹いた。

## シーン2（前書き）

最近暑いですね。

とりあえず短くしてみました。

気軽に読んでいただけたらと思います。

## シーン2

「やあやあ、夏休みは楽しかったかい」  
数学教師が現れた。

「忙しかったよーもうほんとに」  
うん、遊びで忙しかった。

部活やら旅行やらですぐに終わってしまった感がある。

「おっと、会議に遅れてしまうな」

そう言い残し、数学教師は歩を進める。

先生の後姿に会釈をして、廊下をその反対方向に歩き出す。

廊下での一場面。まだまだ夏の香り漂う今日この頃。

そつえばさつき先生が落としたあの書類は何だったんだろう。  
会議とかで必要なのだろうか。

女生徒はくすつと笑った。

「ばーか」

季節の始まりというのは、何かを期待させるようだ。  
気分が少し浮いていた。

同時刻、教室にて。

「ん、このっ、おとなしくしろ！」

窓際、少年2人の会話。

「直射日光を遮る為のカーテンが風で暴れて対処法も思いつかずイライラするなあって顔だな」

「わかってんなら手伝え！」

2人の容姿は、正反対の性格そのままをあらわしているように思える。

やや背が高い方が手を振り上げる。

やや背の低い方は首を傾げる。

やがて。

「MPが無いから無理だ。ということでもたな」

と言い捨て、高い方は低い方に背を向けて歩き出した。

「お前考えただろ！ さっき一瞬考えただろ！！」

「さて、喉乾いたし何か買ってくるか」

「さっきも買ってただろうが！ ってかごまかすな！！」

そしてこの会話は、二人の仲の良さをそのままあらわしているようにも思える。

太陽が一番元気な時刻。

昼休みの出来事であった。

## シーン2（後書き）

次回、校庭で犬が暴れます。



### シーン3（前書き）

今回はグダグダ仕様となっております。ご注意ください。

### シーン3

犬が現れた。

遅刻ギリギリで校門を潜った女生徒は、背後の気配に気づかぬままである。

「せーふ、だね。はあ……」

大分息を荒げている。この状態で気付けるはずもない。  
8時24分。

少し肌寒くなってきた、木々も緑の衣を落としつつある。  
まだこの時は、静かな秋の風景が広がっていた。

時と場所ががらりと変わって昼間の教室。

「なあ、どうした」

背の高い方が、不意に声をかける。

「いや、別に」

と言いながらも、変わらず窓の外を眺め続ける背の低い方。

「そっちこそどうしたんだ、急に話しかけてきて」

「それはだな」

一息おいて、背の高い方が笑顔を作りながら話す。

「校庭に犬なんていたっけなー、いやいる訳無いよなーっていう顔をしてたからさ」

背の低い方は、若干顔を強張らせる。

「たまにお前が本当にMPとか使うように思えてくるよ」

「まさか」

「だよな」

二人は顔を見合わせて笑った。

「いや、読心術が得意なだけさ」

「別の意味でかなり怖いからやめてくれ、そういう冗談」

昼休み明けの体育授業。

どこか気だるい気もする。

女生徒は空を見上げ、容赦なく照りつける太陽を恨めしく思った。

朝夕は涼しいものの、まだ夏は終わってたばかり。

汗が止まらない。

と、そこに。

犬が現れた。

「え！？」

犬？ だってここは校庭で動物持ち込み禁止で……禁止だったかは知らないけど犬が何でここにいるのー！？

パニック寸前の頭を何とか落ち着かせた女生徒は、現状を把握した。突進してくる。

自分に向かって、一直線に走ってくる。

「いやぁ！」

女生徒は犬から逃げる様にして走り出した。

尚、彼女が犬に追いつかれたのは言うまでもない。

「散々だったよ」

鄙びたような声で女生徒は語る。

「それは傑作だな」

数学教師は笑う。まるで仕返し。

「大変だったんだからね」

女生徒はしかめっつらをする。

あの後犬は校舎外に追い出され、犬騒動は幕を閉じたのだが、女生徒に懐いていたと言う事もあり、あらぬ疑いを掛けられたりして…。

結果、痛い目を見たわけである。

秋の放課後。

夕焼けが映える。

女生徒は、しきりに後ろを気にしつつ、帰路につくのであった。

### シーン3（後書き）

次回、数学教師が大失態をします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6116c/>

---

ばけつつこみ

2010年12月30日02時42分発行